

令和6年第6回鹿角市議会定例会 一般質問

□質問順位及び質問所要時間

12月11日（水）午前10時～

1 金澤大輔 議員（45分）
 2 浅石昌敏 議員（30分）
 3 黒澤一夫 議員（30分）
 4 丸岡孝文 議員（45分）
 5 湯瀬弘充 議員（30分）

12月12日（木）午前10時～

6 成田哲男 議員（30分）
 7 戸田芳孝 議員（30分）
 8 笹本真司 議員（60分）
 9 舘花一仁 議員（45分）
 10 栗山尚記 議員（30分）

□質問時間割当表

10:00	10:45	10:55	11:25	11:55	13:00	13:45	13:55	14:25
12月11日 （水）	金澤大輔 （45分）	休憩 10分間	浅石昌敏 （30分）	黒澤一夫 （30分）	休 憩	丸岡孝文 （45分）	休憩 10分間	湯瀬弘充 （30分）

10:00	10:30	11:00	11:10	12:10	13:00	13:45	13:55	14:25
12月12日 （木）	成田哲男 （30分）	戸田芳孝 （30分）	休憩 10分間	笹本真司 （60分）	休 憩	舘花一仁 （45分）	休憩 10分間	栗山尚記 （30分）

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	1	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	本市の医療体制について				
	(1) 小児科診療と入院について		① かづの厚生病院の小児科病床の受け入れ中止と、外来についても白紙状態で今後の協議次第ということが報道され、市内の子育て世代からは不安の声が届いている。病床継続の要望活動に全力で取り組んでもらうのは当然のことながら、現状として、子供が突発的な病気になった場合どうすればいいのか。かかりつけ医に行ってからへの対応にすればいいのか、最初から病床がある大館に行けばいいのか。かかりつけ医が鹿角市だった場合でも大館市立病院は紹介状なしで受け入れてくれるのかなど、子育て世代の不安を解消するサポートが必要と思うが考えられているのか。また、どう対処していくのか伺う。		
2	種苗交換会について				
	(2) 各医療機関との連携について		① 今回の岩手医科大学からの申し出と説明は突発的だったのか、それとも以前から少し話はあったのか。どんどん医師派遣が縮小されてきて、公約の「産婦人科再開」「診療科目の拡充」どころか、関市長が就任して以来、結果として医療の低下・衰退が進んでいる。岩手医科大学には市として少額ではない予算を注いでの連携だが、今後の関係性と対応はどのようにしていくのか。加えて、その受け皿となっているかづの厚生病院の経営の悪化も気になる。こちらも市からの多額の予算が注入されているが、ますます診療科目が減っている。医師確保と病院の維持について、今後市としてどのように対応していくのか考えを伺う。 ② 行政報告では「パークアンドライド方式」により、主会場周辺での大規模渋滞を防ぎ、シャトルバスを円滑に運行できたとのことだったが、渋滞について常任委員会でも指摘され、私の所にも、駐車場準備やバス運行について、役所側と連携が取れていないと、関係者から意見と苦情の声が届いている。関係機関との連携と打ち合わせは密に行われていたのか。次回に向けての課題や反省点など洗い出しはされたのか伺う。 ③ 前回の質問で、JR花輪線を使つての沿線自治体への誘客施策による花輪線利用促進と、観光ガイドや市内の飲食店を結びつけての回遊による市内経済への誘導施策を提案したが、実行されたのか伺う。		

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	1	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
3	空き家対策について			① 今後どんどん増えて対応が難しくなっていく空き家対策だが、空き家バンクへの登録での解消は時間がかかり、解体補助では限度額を利用しても現状は消費税分にもならない。もっと踏み込んだ施策が必要ではないか。能代市では、空き家バンクに登録されている物件を取扱事業者が同行して見学できるツアーがある。これができるば、売り手と買い手の直接の機会の創出につながり、これまで以上の空き家対策につながると思うが、本市でも取り組めないか考えを伺う。 ② 空き家の処分は所有者となった個人が手探りで行うことが多く、情報が少なく放って置きがちになってしまう。現状では、ごみの出し方パンフレットが頼りだが、空き家全体に対応しきれていないと感じる。対応しやすくするために、ごみの処分の仕方や処分先と処理業者、ハウスクリーニング業者、不動産業者、リフォーム業者、空き家バンク登録の勧めなど、一連の流れに沿った対応と業者をまとめて、市のHPやチラシ、ガイドブックで発信することも放置空き家を減らすことにつながると思うが、そのような案内は考えられないか伺う。	
4	ゴミの減量化 3Rについて			① 国の政策として、持続可能な循環型社会の構築を目指し、リデュース、リユース、リサイクルの3Rを推進し、本市ではさらに可燃ごみにおいては、1回の収集で出せるごみは1世帯2袋までと発生抑制に取り組み、減量化を推進しているが、引っ越しや空き家掃除などのタイミングで不用品が大量に出る場合があり、身近につてがなければ結局使える物でも廃棄することになる。リサイクル業者という考えもあるが、現状本市にはない。本当の3R推進として自治体で不用品を引き取り、必要な人にリサイクルで持って行ってもらうことに取り組んでいる、徳島県上勝町のゼロ・ウェイストを視察してきた。そこまで完璧でなくとも、処分料程度の有償で引き取り、少し上乗せて販売し、歳入として計上している自治体もある。本市でもそういった取り組みを考えられないか。拠点としては、いまだ何にも使われていない空き校舎を利活用すれば、こちらもリデュース・リユースにつながり、誰かの不用品が必要な人に使われるリサイクルの場として、3Rの象徴になると考える。さらに現状年1～2回しか回収しない廃蛍光管と廃乾電池の指定回収場所とし常時受け入れる体制とすれば、出す側も回収業者にも都合がよいのではないか。このような取り組みこそ、本当の3R推進のごみの減量化と考えるが、取り組む考えはないか伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	1	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
5	河道の整備について			① 令和5年6月の一般質問、河川の浚渫工事の質問に対する答弁で、断面積や勾配に不具合がある箇所、浚渫工事や部分改修工事を実施するとの答弁で予算計上もされていたが、工事は完了したのか。まだ着手していないと思われる箇所も見受けられる。鉄砲地区周辺の福士川も入っていると聞いていたが現状、手つかずのままで、不動川についても、地域住民から「いつやるのか。それともあれで終わりなのか」という声が届いているが、その説明と状況を伺う。	
6	市営住宅について (1) 家賃の滞納について			① 現在、家賃を滞納している入居者は何世帯いて、そのうち5年以上滞納しているのは何世帯か。最長は現在までで何年何か月か。また全ての滞納額の合計は幾らになるか伺う。	
	(2) 家賃の滞納に係る適切な措置について			① 滞納している入居者もいろいろな事情を抱えているというのは容易に理解できるが、公平公正の観点から、未納は回収するのが業務である。払えない時点でさらに安い他の市営住宅を勧めたり、選挙の立会人など市で募集する業務を斡旋するなどいくらでも回収に向けた働きかけはあると思うのだが、なされているのか。困窮度が高い世帯に関しては、何らかの問題を抱えている場合が多いが、関係する部局や機関、生活保護をはじめとする生活安定のための支援策の情報の提供や助言など、行政の適切な措置は取られているものか伺う。	
7	農業政策について (1) 農地中間管理機構を介した農用地利用集積等促進計画について			① 令和7年4月から、農地貸借（売買）の方法が農地中間管理機構を介した促進計画と、農地法3条に基づく農業委員会許可の2つになるとのことだが、これは貸し手が機構に相談すれば、機構が借り手を見つけてくれるということなのか。機構活用のメリットだけを見れば貸し手と借り手双方にあり、早急な耕作放棄地解消に結びつくと思うのだが、目途として何年で耕作放棄地を解消できると考えているのか伺う。 ② 一方で、貸借や売買が進むと稲作に関わる農業者の減少と、現役生産者に係る負担増が懸念されると思うが、考えを伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.4

順位	1	質問者	金澤 大輔	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
(2) 圃場整備事業について				① 5年先、10年先を見据え、目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する各地区の地域計画の策定を進めているとのことであったが、圃場整備事業の進捗状況は計画通り進められているのか伺う。また、スムーズに進むよう土地改良区と連携して、農家への納得がいく説明と同意を得る必要があるが、連携はできているのか伺う。	
(3) 農業人口について				① 各経営体が規模拡大を行うことができるようスマート農業機器の導入を支援していく方針のようだが、機器の導入以前に圃場整備と田んぼの関係人口を含めた農業人口を増やす施策の立案が急務だと考える。JAと連携や、国県の動向を見ながらという答弁では主体性がないのではないかと考える。本市の行政施策はないのか。もっと行政が農業に力を注ぎ市民を巻き込む指針を出すべきと思うが、市長の考えを伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	2	質問者	浅石 昌敏	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	保育園問題について				
	(1)	保育園の交通安全について	① 毛馬内保育園はカーブのところにあり、夏は見通しがよいが冬は雪のため見えにくくなる。また、朝夕は駐車場に車がありカーブで見通しが悪くなる。昔あったグリーンベルトが消えていることから、再度引き直せないのか伺う。また、同保育園には駐車場及び園庭の一部に柵がない状態となっている。鳥獣被害や不審者の侵入防止、事故対策及び園児の飛び出し防止のため、柵の設置ができないか伺う。		
2	(2)	熊対策について	① 保育園児はたくさん散歩をしている。昨今の熊被害のため、散歩や園外に出向く際には、爆竹や音を出すもの及びライト等を携帯しているが、完全には不安を拭えない状況にある。このことから、熊防止スプレー等の支給及び警備員の配置ができないか伺う。		
	集落の対応と市町村合併について				
	(1)	限界集落と戸数の少ない集落の対応について	① 限界集落と戸数の少ない集落について、現在集落支援員を配置して支援しているが、人口減少の状況を見ると集落の維持が不可能と感じる。このような状況で今後どのように進めていくのか、市長の考えを伺う。		
	(2)	小坂町との合併について	① 平成 16 年に成し得なかった合併から 21 年経過し、人口が併せて 14, 585 人減少している。今後 20 年先を見据え合併問題を協議する時期と考えるが、市長の考えを伺う。		

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	2	質問者	浅石 昌敏	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
3	各地区の消防団の予算措置について			① 鹿角市消防団は第1分団から第17分団まで約700人が活動しているが、定員には120人不足している状況にある。 消防団の幹部会議では、各分団に対して地域での寄付行為は禁止としている。そういった中で、分団によっては自治会員からの個人的なご厚志や自治会からの協力金を分団の活動費に充てているところもあるようだが、備品の購入費や大会時の団員の弁当・お茶代、出初め式後の新年会費用などの活動資金が乏しい分団も多い。このことについては、現在、若手の消防団員数が不足しているが、活動資金の確保がネックで地域の若者が入団を避けているとの声も聞こえている。 このことから、各分団が運営資金に苦慮せず活動ができるよう、活動費への支援ができないか、市長の考えを伺う。	
4	八幡平地区の公共施設の避難場所について			① 八幡平地域の保育園・小学校・中学校・市民センターは、米代川と熊沢川の合流点に位置する。近くに高台がないことから、想定外の水害となった場合の避難場所をどこに指定するのか、市の考えを伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	3	質問者	黒澤 一夫	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	人口減少に対する歯止め対策と、働く場所の確保への取り組みについて		① 出生者の減少は将来的に市の発展に大きく関わってくると考える。長期にわたる対応として、どのような施策を講じているのか伺う。 ② 子育て・入学支援として、小学校、中学校の入学時にそれぞれ 10 万円の学費支援を制度化し、市の政策を充実してはいかがか。		
2	市民にやさしい除雪事業について		① 市民の多くは市の除雪作業に期待をしている。委託先及び除雪機械等は十分な体制となっているものか伺う。 ② 個々の間口に置かれた雪のかたまりの片づけで難儀をしている市民、高齢者がたくさんいる。この対策をどのように講じるのか伺う。		
3	市内医療環境の充実とかづの厚生病院の来春からの小児科常勤医の確保に向けた取り組みについて		① 公約の実現とは現状違う状況が続いている。かづの厚生病院の小児科医が非常勤体制となることへの対応を伺う。		
4	観光産業の強化・振興について		① 市の主力産業である観光業で、八幡平温泉郷の入り口に倒壊したままのホテルが見受けられる。景観向上のため対処すべきと考えるが、市の考えについて伺う。 ② 世界遺産を生かした広域的観光の取り組みが必要と思うが、どのような対応をしているものか伺う。		
5	食糧生産、農業振興、農地保全への取り組みについて		① 農家の減少と生産規模の縮小により、農地の荒廃が進んでいる。市の耕作放棄地はどのくらいの面積となっているか伺う。		

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	3	質問者	黒澤 一夫	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
				② 農地の有効活用のため、市独自の支援が必要であると考えているが、どのような対応を行っているか伺う。 ③ 農業法人、生産農家等、農業者の確保も急務であると考えている。この取り組みはどのようなになっているか伺う。 ④ 市内の農地・休耕地を利用して、働く場の確保のため、市がリードして農業会社を創設してはいいかがか。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 議会が副市長へ要望し行った「関 市長からのパワハラ又はパワハラ 的な言動等に関する実態調査」への 職員からの回答で「議員による市職 員へのパワハラ行為がある」との訴 えへの市としての対応について				① 市職員が明らかにした「議員による市職員へのパワハラ行為」を議会として調査は行わないとなつたことへの市職員の反応について伺う。 ② 議員による市職員へのパワハラ的対応については、今回の調査と同様に官製談合再発防止対策時に行った職員へのアンケートにおいても職員から「された」「されているのを見聞き」したとの回答がされている。官製談合再発防止の際、議員からの不当な要求やパワハラ的行為をされたという訴えについて再調査など行ったのか。行わなかったとすればその理由、行ったとすればその結果について、併せて調査指示は誰が出したものを伺う。 ③ この二つの職員アンケートは重大事案に伴い実施されたもので、それに対する回答は市政運営の根幹に関わり、何をおいても解決すべき問題であると考ええる。今回の訴えは職員による内部通報ではなく議会からの要請で行った調査とはいえ、職員が安心して就業できないとの訴えであり、内部通報ではしっかりと調査してもらえないとの市職員の気持ちの表れからこの機会に訴えたとも受け取れる。職員を守る立場で事実の究明は行うべきだと考えるがいかがか。また、同様の訴えが公益に関わる内部通報としてされた場合は、どのように対応されるのか併せて伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
2 風力発電事業について				① かづのグリーンエネルギー株式会社の（仮称）鹿角東部市民ウィンドファーム事業及び株式会社グリーンパワーインベストメントの（仮称）上沼風力発電事業の2事業者2事業に関し提出された計画段階環境配慮書に対し、鹿角市の意見書は全く同じ文面で「①眺望景観について適切な方法での調査、予測及び評価を実施しそれに基づく風車の数、配置を検討に反映させ眺望景観への影響を回避又は十分に低減すること」、「②国内希少野生動物種のイヌワシの生息が確認されていることから設備の配置については鳥類への影響について適切な方法での調査、予測及び評価を行いその結果を踏まえ環境保全措置等を講じ鳥類への影響を回避又は十分に低減すること」、「③事業実施想定地区周辺での森林伐採、土地改変に伴う土砂や濁水による動植物、水への影響を適切な方法での調査、予測及び評価を行いその結果を踏まえ設備の設置検討し土砂の崩落・流出の可能性の高い箇所の改変を回避、土地の改変量を可能な限り抑制し、自然環境への影響を回避又は十分に低減すること」の3件について意見が書かれている。この意見書を読んだだけで、十数キロに及ぶ風力発電機の設置工事、完成後運用における鹿角の山々の景観、生息する希少動物を含む動植物、森林の保全、水環境、防災へ及ぼす影響の大きさは市民が今まで経験したことがないほど多岐にわたり、将来まで続く環境の変化が想像され恐ろしささえ感じた。この2事業者から提出された計画段階環境配慮書への意見書作成提出に当たり、鹿角市はどのような思いをされ意見提出されたのか伺う。 ② 9月定例議会での一般質問で「風力発電の必要性について」を質問し、市長から風力発電事業を受け入れるメリットについて「鹿角が有する豊富な再エネ資源を有効活用し地域や産業の活性化させ持続可能なまちづくりが行える」、「発電所の建設や完成後の維持管理での市内事業者への受注機会や雇用創出、関係者の宿泊など、様々な経済効果がある」、「電気をかづのパワーを通じて地域内に供給することで、エネルギーと資金を域内循環させることが可能となり、このような環境を持たない他地域に比べ最大の強みとなる」の3点と伺った。また、先ほどの計画段階環境配慮書への市の意見書では繰り返し「影響を回避又は十分に低減すること」という表現がされ、最後にこの3件の重大な影響等を回避又は十分に低減できない場合は、風力発電機の配置等の再検討、対象事業実施区域の見直し及び風力発電機の大幅な機数削減を含む事業計画の見直しを行うことと「見直し」を求められていることなどから鹿角市は風力発電の受け入れを決めていると受け取れるがどうなのか。また、景観を含む鹿角の自然は市民全ての財産であり、このような重大な変更が市民に詳しく説明がなされず進められているのであれば問題だと思うが、今後の対応について併せて伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
3	道の駅おおゆ内の左多六神社について			① 令和4年12月8日、令和4年第8回定例会において、当時の議員が道の駅おおゆにある左多六神社について市の考えをただしている。質問を要約すると、あの造形物には賽銭箱が設置されており、賽銭を入れ手を合わせて願いごとをする方もあるのは神社ではないのか。また、造形物に関わる行事に宗教儀式用語が使われているが神事の案内ではないかとの質問に「神社の形をしたオブジェであり神社ではない」、「事業の表現が誤解を招きふさわしくなく注意をする」と当時の産業部次長が答弁し、賽銭箱と表示されていた箱の名称表示についても適当でなく指導する（やめさせる）と当時の産業部長が答弁したが、質問した議員は、表示がなくてもお金を入れ、神社そっくりの物に手を合わせてお願いをする行為は神事以外の何物でもないと言言していた。 2年前に指摘された、この宗教分離に反しているという疑わしきことへの市の注意指導はどのようなものであったのか。また、指導を受けた指定管理者の取った対応はどのようなものか。さらに、現在まで、道の駅おおゆにおいてはそのような宗教分離に反すると誤解を与えるような行事や行為、誤解を招く物の設置や、物販が繰り返し行われていることはどういうことなのか伺う。	
4	鹿角市の財政と次年度施策への影響について			① 市のホームページにも掲載されてる決算の資料を見ると、決算収支では財政調整基金の取り崩しを6億1,068万7,000円行い、なおかつ実質単年度収支が3億4,164万8,000円の赤字と記載されているが、これは財政調整基金を取り崩さなければ昨年度は9億5,000万円ほど赤字であったという見方でよいのか伺う。 ② 決算報告によれば、支出の削減をこれからも進めること、自主財源の確保が必要とのことだが、財政調整基金を取り崩してなお2年度連続の赤字では、次年度は市独自の政策立案や実行が難しい、取り組めないということか伺う。 ③ 小坂町で今年7月11日に開かれた佐竹知事の県民の意見交換会で、老朽化した施設の改修や改装を住民参加者が提案したのに対し、知事は「この町は金ないんだな。貧乏なんだよ。人口減って、産業がない」と発言したことは記憶に残る出来事であった。本市でも令和5年度の決算特別委員会が10月に開催され、委員会審査報告が行われ認定されたが、市民からは「小坂町は財力がある」と思っていた小坂町に対しての知事の発言から「鹿角市はどうなんだ」という声がある。県から見て、鹿角市は貧乏と見られているのか伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.4

順位	4	質問者	丸岡 孝文	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
5 国の物価高騰対策と市の子育て援助対策について				① 国は、低所得世帯へ物価高対策のための給付金支給を盛り込んだ補正予算を計上し、閣議決定した。鹿角市で給付金の対象となる年代別の世帯数と、こども加算支給対象世帯のうち、年収のみで給付金対象となる世帯数の3年間の推移を伺う。 ② 就労による年収の少ない非課税世帯への就業紹介斡旋等、世帯収入増の取り組み状況を伺う。 ③ 給付対象は低所得世帯となっているが、正確には非課税世帯であり、決して高齢世帯や何らかの理由で就業に支障がある方、子育てをしている一人親世帯ばかりではない。年収がある程度あっても控除される金額が多くあれば非課税世帯となり得ると思うが、例えば今回の給付対象（非課税世帯）世帯中、400万円から500万円ほど年収のある対象世帯はあるのか。あるのであれば何世帯か伺う。 ④ 市民の中にはこの物価高の中、一生懸命働き支出を切り詰めながらの暮らしでも税を納めている子育て中の課税世帯が多数存在する。国の物価高騰対策で非課税世帯への給付金が支払われる一方で、「頑張って税を納めても何も報われない」という気持ちになると聞く。 そこで、先ほど市の財政について伺ったが、次年度、鹿角市として子育てを頑張っている世帯に対し何らかの市独自の救済施策を行うべきと考える。具体的には、学校給食の段階的無償化への取り組み、修学旅行費用の3割負担など、多くの市民に理解を得られる子育て環境への取り組みを行うべきと考えるが、市の考えを伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	5	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1 鹿角高校について					
(1) 支援体制の充実と県内外から入学者を呼び込む施策について			① 北海道鹿追町にある鹿追高校では、幼小中高一貫教育として英語教育に力を入れている。その中で注目されているのが、高校2年生全員が参加するカナダへの短期留学である。2週間に及ぶ留学費用のほぼ全額を町が負担している。その他にも、男子・女子寮の完備、入学準備金支援、通学及び部活動バスの無料運行など、様々な支援体制がある。さらに全国に入学募集をかけPRしていることで、現在では地元入学者よりも道内外からの入学者が多く、好評を得ている。 鹿角高校でもこのような支援体制を整え、全国から入学者を呼び込む施策ができないか、考えを伺う。 ② 鹿追高校では、メタバース上でオンラインの学び場を無料提供している。「o v i c e」というシステムを使ったバーチャル空間に参加者はアバターになって入り、各教科の部屋へ移動する。その中では、大学生のチューター（家庭教師）が待機しているため、いつでも質問などができる仕組みになっている。このような学びの場の提供により、勉強意欲の向上や悩みごとの改善にもつながっている。そして、学力も向上し、国公立大への進学も増えてきている状況である。 このようなシステムを鹿角高校でも導入できないか考えを伺う。		
2 家庭ごみの資源化などについて					
(1) 容器包装リサイクル法に基づくごみの分別排出・分別収集について			① 本市でも近々、ごみの資源化に向けた取り組みを推進する予定と伺っている。それに伴いごみの分別排出・分別収集をしなければならないと考えるが、いつ頃の開始を予定しているのか伺う。また、どのような計画で進めていくのか併せて伺う。		
(2) 家庭ごみ収集の有料化について			① ごみの資源化には相当の費用と労力がかかるが、今後ごみの資源化を進めていく中で、家庭ごみ収集の有料化はあるのか考えを伺う。		

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	5	質問者	湯瀬 弘充	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
3 感染症対策について					
(1) 高齢者施設等における感染症対策について				① 11 月末現在、新型コロナ及びインフルエンザの感染者数が増加し、県より高齢者施設等に対策の強化を依頼する旨の通知が届いていると伺った。新型コロナについても 5 類感染症となったことから、以前のような国からの補助金・助成金がない状況と考える。感染症対策を行うにも費用がかかり大変厳しい状況だと伺っているが、本市ではどのような支援を行っているか伺う。	
(2) 新型コロナウイルスの感染者数について				① 秋田県における 11 月 17 日時点での新型コロナ感染者数（定点把握）が全国 1 位、また、新型コロナワクチンの接種率も 1 位である。この結果を見てネットニュースなどでは「集団逆免疫」と表現されている記事も見受けられた。この感染者数とワクチン接種率の関係をどのように分析し、どのように捉えているか考えを伺う。	
(3) 新型コロナワクチンについて				① 10 月から新型コロナワクチンの定期接種が開始されたが、鹿角管内の医療機関で使用されているワクチンの種類は何種類あるか伺う。 ② 今回の定期接種から採用された新たな mRNA ワクチン（レプリコン）は、自己増殖型のワクチンであり、懸念する声が相次ぎ全国で様々な議論がされている。このワクチンの安全性や性能、懸念点について伺う。また、日本以外にも承認されている国はどれくらいあるか併せて伺う。	
4 経済対策について					
(1) 103 万円の壁について				① 現在国会で議論されている 103 万円の壁について、もし課税水準が 178 万円になれば秋田県全体で 250 億円の減収と試算されていた。その場合、本市ではどの程度の減収となるのか伺う。また、この対策によって市民にはどのような影響があると想定しているのか考えを伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	6	質問者	成田 哲男	質問所要時間	30 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	花輪線の利用促進について			① 10月に1か月間、サイクルトレインの実証実験が実施されたが、どのような結果であったか伺う。 ② この実証実験を行って、今後利用促進にどのように結び付けていくのか伺う。	
2	地域医療について			① 来年からかづの厚生病院の小児科への常勤医の派遣と入院の受け入れが中止になると伺った。病床継続の要望は継続しているが、常勤医の派遣や病床継続の見込みなどについて、どのように見ているのか伺う。 ② 市内の小児科で基本診療を行う開業医もいるが、その医師とかづの厚生病院関係との連携などについて話し合う場を設定することは考えられないか伺う。	
3	鹿角高校の支援について			① 10月に民間主導の鹿角高校を支援する協議会が立ち上がった。その構成メンバーに市も入っており、就学支援と地元企業への就職支援が活動の柱のようだが、下宿施設などは確保できるのか伺う。 ② 市外や県外から入学する生徒について、卒業後に本市で働く意向などを持っているものか伺う。	
4	中学校部活動の地域移行について			① 今年度からソフトテニス、卓球、吹奏楽の地域移行のモデル事業が行われている。まだ年度内であり活動数も少ないと思うが、現段階での課題はどのようなものか伺う。 ② 検討委員会に設置されたスポーツ分科会で取りまとめられた内容について伺う。 ③ 今は改革推進期間であるが、予定の令和8年度から地域クラブ活動を立ち上げることにについて、どのような見込みか考えを伺う。	
5	移動期日前投票所の設置について			① 今回の衆議院選挙の期日前投票率は、2021年より6.8ポイント上昇したと県の発表があった。今選挙より導入した巡回式移動投票所について、3日間の実施で411の方が投票したようだが、どのように評価するか伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	7	質問者	戸田 芳孝	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1	関市政のこれまでの成果と今後の見通しについて			① 関市政の3年間に於いて、市長が成し遂げた主な成果は何か伺う。また、公約として掲げた「5つのビジョン」について、現時点で実現の見通しが立っているものと、達成が難しいと判断されるものについて、それぞれの現状を伺う。	
2	パワーハラスメントについて			① パワーハラスメントが職場環境や組織全体、職員の心身に与える影響について、市長はどのように認識しているのか、その見解を伺う。	
	(1) パワーハラスメントの認識について				
	(2) パワハラ的発言とされる音声について			① 9月27日のNHKニュースにおいて、関市長が幹部職員に対し「議案について、なんで前の日に反対だって分からないんだよ。それを確認する最重要情報だぞ。だめだぞ、お前ら」と発言し、机を叩きながら大声で叱責する様子が報道された。また「市長の了解なしの答弁はご法度なので、もし議会でそういう答弁があった場合は辞めてもらいますから。今度は懲戒免職というふうに思っている」と発言したことも確認されている。これらの発言や行動が事実であれば、極めて不適切と考えるが市長の見解を伺う。	
	(3) パワーハラスメント防止対策について			① 本市におけるパワーハラスメント防止の基本理念と、それに基づく具体的な対策について伺う。	
3	子供を取り巻く環境改善に向けた支援と対策について				
	(1) 子供の貧困対策の現状と取り組みについて			① 本市における子供の貧困の現状及び課題について、行政としてどのように認識しているのか伺う。また、貧困世帯への支援策として現在実施している具体的な施策と、今後の取り組みについて伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	7	質問者	戸田 芳孝	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
(2) 不登校児童生徒への支援体制の充実について				① 不登校の要因とその対応策について、要因分析をどのように行い、支援体制をどのように整備しているのか伺う。また、家庭や学校との連携をどのように進め、どのようなサポートを提供しているのか伺う。	
(3) ヤングケアラーへの支援策の充実について				① 本市における、家庭内で家事や家族の世話を担っている子供たち（ヤングケアラー）の実態について伺う。また、ヤングケアラーを早期に発見し、その負担を軽減するための具体的な支援策について伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	8	質問者	笹本 真司	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 鹿角市の医療体制とダウンサイジングについて					
(1) 短期的観点について				① 小児科の常勤医派遣停止の判断に至った経緯について、具体的に説明のあった内容と、現状での鹿角市の対応状況について伺う。また、仮に現実となった場合、小児科入院患者の受け入れをはじめ、それ以外にも影響が出る事象があれば列举して、それぞれについて見込まれる対応について伺う。 さらに、かづの厚生病院内に設置されている病児保育室「NAÔRE(なお〜れ)」の運用についても影響があるか、併せて伺う。	
(2) 長期的観点について				① 少子化、人口の減少とともに、かづの厚生病院の経営上、徐々に機能が縮小されていく方向であることは予想でき、今回の小児科機能縮小も、タイミングは別として決して予期せぬ事態ではないと考える。 徐々に医療サービスがダウンサイジングを図っていく中で、将来的な地域医療の底支えとして、10年後を考えたとき、少子化対策の観点から、産婦人科と小児科に關して絞った場合、それぞれ行政が費用負担してでも死守するラインを鹿角市ではどのように考えているのか。それとも、そのようなラインは設定せず、「都度実情等に照らし合わせ、可能な限り廃止・縮小を先延ばす」という方針が基本的姿勢であるのか伺う。	
(3) 政策目標値の解像度について				① 第7次鹿角市総合戦略によれば、中核病院の常勤医師数は令和元年度19人、令和7年度目標を22人、さらに令和12年度には25人としているが、令和5年度現在では2名減少して17人であり、さらに今回の小児科常勤医派遣停止予定の打診は、さらなる下方圧力が働いていることを示す客観的事実と見てよいと考える。 仮に令和7年度目標の22人、令和12年度目標の25人を達成した場合、それはどこの診療科の常勤医の増加分を想定し、どのように政策目的としての医療サービスが提供されるかまで詰めた数字なのか。それとも、常勤医増加という挑戦的な数値目標を作り、それに向けて具体的に努力するための動機づけ的側面が大きいのか伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	8	質問者	笹本 真司	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
2	(4) 政策の優先度とビジョンについて			① 現状を鑑みたとき、市長公約の一つである分娩機能の再開は、逆に医療体制の再充実を図るものである。今後さらに他の様々な医療サービスの廃止・縮小の議論が出てくると予想される中で、政策の優先度はいかに医療体制の縮小速度を踏みとどめるかと、その補完的政策に注力せざるを得ず、分娩機能の再開は現実的ではないのではないか。 仮に、市長にとって分娩機能の再開が、鹿角市の将来を決定づける死活的政策であることに変わりがなければ、実現のために必要な条件の洗い出しと実現へのプロセス、持続性の提示をお願いしたい。また、少なくとも小児科常勤医の確保は必須となると考えるが認識を伺う。	
	(5) 根本的姿勢の明確化について			① 病院単体としての黒字経営は到底見込めない中、民間中核病院と行政という立場の違いがある中で協力関係を前提とした鹿角市の医療政策の継続は、この先も最適解であるか。 相手のあることであり、軽々に発言することはできないと思うが、現状の総合戦略の目標値を本気で達成する覚悟であれば、民間中核病院の市立病院化や一部機能を引き取るなどして、市が地域医療を主導的に引き受けていくほどの覚悟・検討が必要となるものと考えるが、認識を伺う。	
	公共施設のダウンサイジングについて				
	(1) 公共建築物の管理運営費用の現状について			① 公共施設管理計画は平成28年に策定され、令和5年に最新の改訂がなされているが、依然として平成25年度までの古い情報も多く、最新の情報を反映した改正が必要と考えるが、認識について伺う。 また「2014年度の公共建築物に関わる管理運営費用は、約9.4億円」とある。総量を10%削減すると、管理運営費についても約10%節減できる見込みとしており、基本方針として、総量を15年間で7.5%縮減することを目指すとするが、10年ほど経過した現在の最新の縮減進捗率、管理運営費用を伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

順位	8	質問者	笹本 真司	質問所要時間	60 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
3	(2) 具体的な実行計画について			① 個別施設計画において、令和12年度までに「廃止」と位置づけられた施設に関する具体的な取り組み状況を伺う。また、実効性を上げるため、広島県安芸高田市で策定した施設廃止スケジュールのように、具体的な廃止年まで落とし込んだ計画にブラッシュアップし、市民に対しても、行政の持つ問題意識を正面から共有する姿勢が求められると考えるが、認識を伺う。	
	(3) 廃止施設の解体と有効利用について			① 令和3年度に公共施設解体基金条例、今年度から鹿角市空き公共施設等利活用促進条例が施行されているが、現状において、廃止後、譲渡・利活用等がされていない施設は何件あるか。また、現時点における廃止施設の解体や、利活用についての進捗状況や課題について伺う。	
	鹿角市の「消滅可能性」回避について				
	(1) 「消滅」の定義について			① 「消滅」という言葉のインパクトが強く、一人歩きしている印象があるが、仮に鹿角市が「消滅」するとは、端的にいえばどのような状況で、どうなることを意味すると捉えているのか。自身の認識では、消滅とは他自治体との合併を意味し、それが起こる状況としては人口減少や公共設備・サービスの維持負担による大幅な財政悪化や、そもそも職員の確保が難しく、市単独として行政運営が厳しい状況に置かれたとき、もしくはそれが不可避であると認識されたときと捉えているが、見解を伺う。	
	(2) 消滅可能性の具体的なシナリオについて			① 現状のまま推移、もしくはより状況が悪化すると、最も「消滅」が起こりうる可能性が高いと考えるシナリオはいつ頃、どのような形と想定するか。	
	(3) 総合計画・具体的政策の目標値の設定のあり方について			① 鹿角市が「消滅」しないために、しなければならないと認識していることは全て洗い出されているか。また、その目標値、K P I の設定に当たっての実現性解像度は妥当なものか。現状の認識と改善点があれば伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.4

順位	8	質問者	笹本 真司	質問所要時間	60 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
4 義務教育における不登校児童への対応について					
(1) 原級留置（留年）の運用について			① 文部科学省の令和2年度不登校児童生徒の実態調査によれば、最初に学校に行きづらいつと感じたきっかけは特定なものに偏らず、多岐にわたっている。不登校となると、結果的にひきこもり状態になり、運動不足、生活習慣の乱れ、インターネット依存、学力低下等に陥りやすいのではないかと考える。 また、不登校でなくとも、勉強面でつまづいたまま進級を重ねることは、実質的な学力の習得が滞るのみならず、挽回できない限り、自己効力感を育む上でも影響があり、将来的に潜在的な不登校を生み出す一つの要因にもなっていないか。 学校教育法施行規則第57条に「各学年の課程の修了又は卒業を認めるに当たっては、児童の平素の成績を評価して、これを定めなければならない。」とあり、制度上は原級留置（留年）が認められていると理解している。一方で、公立小中学校の義務教育では基本的に原級留置（留年）は適用されないのが実態と考えるが、本市における運用の現状と、その理由について伺う。		
(2) 不登校理由の根本原因について			① 令和4年第8回定例会の一般質問における教育長の答弁において、不登校となる主な理由の一つとして、「無気力・不安」を挙げているが、文科省の不登校要因調査報告書によれば、「教師回答から、教師が把握可能な要因が明らかでない場合に「無気力・不安」を主たる要因として報告されている可能性が示唆された」としている。それでは、この「把握可能な要因が明らかでない」根本的な要因はどこにあると分析しているか伺う。		
(3) 不登校からの復帰率について			① 不登校となった生徒の学校への復帰率について、その推移と要因を伺う。		
(4) 地域の特性を活かした支援プログラムについて			① かつて花輪の小学校では、夏休みにいわゆる虚弱体質の児童を対象とした「湯治」が八幡平で実施されていたと複数の年配者からお聞きし、地域の資源や文化を活かした素晴らしい取り組みであると感じた。 そのような視点で俯瞰したとき、産業活力課の所管で実施している森林セラピー活用事業を、フリースクールの機能の一つとして、不登校もしくは不登校傾向にある児童の希望者を対象に活用することで、心身に好影響を与えることが期待できないか、考えを伺う。		

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	9	質問者	舘花 一仁	質問所要時間	45 分
質 問 事 項			質 問 要 旨		
1	特殊詐欺への対応について				
	(1)	特殊詐欺被害防止への対応について	① 鹿角警察署では、老人クラブへの訪問活動などを行い、高齢者に対して注意喚起を行っていると同っている。また、市でも市民メールや出前講座を通じて周知活動を行っていると同っているが、本市における現在の取り組みについて伺う。		
	(2)	自治会等への積極的な働きかけの必要性について	① 特殊詐欺被害が多発している状況を踏まえ、依頼を待つだけでなく、市として自治会や町内会に対して積極的に説明会の開催を呼びかけ、特殊詐欺被害を防止するための注意喚起を行うべきと考えるが、市の見解を伺う。		
2	「103 万円の壁」見直しによる本市への影響について				
	(1)	税収減の影響について	① 特殊詐欺では、若年層が「受け子」や「出し子」として犯罪に加担するケースが増えている。この背景には、「高額報酬」を謳った怪しいアルバイト情報に簡単にアクセス可能であることがあると考える。市民やその子供が犯罪に関与しないようにするため、市として注意喚起や教育的な取り組みをどのように進めるべきと考えているのか伺う。		
			② 特に学生を対象とした防犯教育や、地域での啓発活動を強化すべきと考える。本市において、学校や地域団体とどのように連携し、対策を進めていく計画があるのか伺う。		
			① 10 月の衆議院選挙では、「103 万円の壁」の見直しを掲げた国民民主党が大幅に議席を増やし、石破政権も制度の見直しに向けた議論を進める姿勢を示している。所得税と住民税の基礎控除を 178 万円まで引き上げた場合、国と地方を合わせて年間約 7 兆 6,000 億円の税収減が見込まれると指摘されているが、本市において、この見直しがどの程度の影響を及ぼすと試算されているのか伺う。		

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	9	質問者	館花 一仁	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
3		聴覚障害者への行政窓口での支援について	(2) 市民生活への影響と市の対応について	① 税収が大幅に減少した場合、本市が計画する必要な建設事業や、独自に拡充している福祉医療費助成など、市民生活に深刻な影響が及ぶことが懸念される。 こうした状況に対して、市長のこれまで築いてきた関係性やネットワークを活用し、国に対して適切な財源確保を求めるべく積極的に声を上げるべきだと考えるが、市長の見解を伺う。	
			3 聴覚障害者への行政窓口での支援について	① 札幌市では、区役所に字幕ディスプレイを試験導入し、窓口職員の話した内容を人工知能で即時に文章に変換して画面に表示するシステムを運用している。この結果を踏まえ、2026 年度までに全区役所での導入を目指していると伺っている。また、大館市では、9 月からビデオ通話による手話通訳サービスを開始している。 障害者差別解消法では、国や自治体、事業者に対し、障害者の求めに応じて「合理的配慮」を提供することが義務付けられているが、本市における現在の聴覚障害者への行政窓口支援の状況について伺う。また、札幌市や大館市で導入されているような先進的な支援サービスの導入について、本市としてどのように考えているのか伺う。	
			4 J R 花輪線存続への支援について (1) 花輪線利用者への支援について	① J R 東日本が公表した 2023 年度の地方路線の収支によれば、荒屋新町駅から鹿角花輪駅区間では 100 円の収入を得るために 1 万 916 円の経費がかかっており、赤字額が高い状況である。 本市では、花輪線利用協議会等を通じて利用者数増加の対策を進めているが、今定例会でも増額補正計上されている大館能代空港利用助成のように、もっと積極的な支援が必要ではないか。例えば、湯瀬地区のホテルに市民が花輪線を利用して宿泊した場合、宿泊費の一部を助成するなどの具体策を講じることにについて、どのように考えているのか伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.3

No.3					
順位	9	質問者	舘花 一仁	質問所要時間	45 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
(2) 修学旅行時等の利用促進について				① 現在、市内の多くの学校では修学旅行や校外学習の際、学校まで直接バスが到着して送迎するケースが多いと認識している。また、訪日外国人の増加に伴う宿泊料金の高騰により、青森市教育委員会が保護者からの「負担が大きい」という声を受けて修学旅行への補助を開始したとの事例がある。 本市においても、同様の事情がある場合、修学旅行で花輪線を利用する際に支援を増加させるなど、利用促進を目的とした施策を検討すべきと考えるが、市の見解を伺う。	
(3) 市職員への利用促進について				① 市職員が首都圏等へ出張する際、高速バスの利用が推奨されていると聞いている。しかし、経費削減のためとはいえ、市民に花輪線の利用を促す一方で、市職員が花輪線を利用しないのはいかなものかと考える。 もし市長がそのような指示を出していないのであれば、花輪線の利用促進の観点から、出張時に積極的に花輪線を利用するよう関係課へ指示を出すべきと考えるが、どのように考えるのか伺う。	
5	保育等に関する申請の電子化について				
(1) 保育園等入園申請の電子化について				① 茨城県取手市では、保育所や認定こども園の入所申請を来年度入園分から完全オンラインに移行するようだが、本市における保育園入園申請の現状について伺う。また、電子化により、申請者は空いた時間に申請が可能となるだけでなく、来庁者の減少により職員の業務効率化にもつながると考えるが、本市でオンライン未導入である場合、導入についてどのように考えているのか伺う。	
(2) 病児保育申請の電子化について				① 病児保育の申請では、電話で空き状況を確認する必要があり、週末を挟むと当日の朝まで確認ができないため不便を訴える声がある。ネット上で空き状況が確認でき、そのままオンラインでの申請が可能になれば、朝の忙しい保護者だけでなく、保育園や病児保育室側にとっても利便性が向上すると考えるが、このようなシステムの導入についてどのように考えているのか伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.1

順位	10	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
1 教育環境について					
(1) エアコンの設置について				① 小中学校普通教室へのエアコン設置は完了していると思うが、授業が行われる特別教室や体育館等へのエアコン設置状況を伺う。未設置の場合、体育館は大規模のため整備に時間が必要と思うが、実際に授業が行われている特別教室の空調環境については早急に整備が必要と考えることから、計画を伺う。	
(2) タブレット端末の更新について				① 生徒 1 人に 1 台行き渡っているタブレット端末により、時代の流れに沿った教育環境が整ってきたが、更新時期への対応も必要と考える。現時点での計画や国や県からの支援計画について、現状と問題点について伺う。	
(3) 不登校生徒や家庭への対応について				① 秋田県の 2023 年度小中学校不登校者数が、前年比 24%増の 1,947 人と過去最多となった。原因やタイプ・保護者の考え方が多様化する中、1 人も取り残すことのない体制づくりのために、居場所や学びの場の確保・スクールカウンセラー等の増員など、多種多様な環境整備が求められていると考える。さらには保護者への相談体制も強化する必要があると考えるが、市内の現状と問題点・計画について伺う。	
(4) 保護者の車による送迎への対応について				① 学校統合が進み、校舎が遠方になった家庭が増え、保護者による車での送迎も増え、もともと朝、夕共に混雑していた学校駐車場や周辺道路に以前にも増して混雑が見られる。子供たちの安全を確保するためにも環境整備が必要と考えるが、現状と対応を伺う。また、これから迎える積雪期の駐車場の排雪を頻繁に行うだけでも駐車スペースや乗降スペースの確保につながると思うが、対応できないか伺う。さらには、鹿角高校の周辺道路への乗降スペースの整備も、県が行わないのであれば、市が対応すべきと考えるが、併せて伺う。	

令和6年第6回鹿角市議会定例会一般質問

No.2

順位	10	質問者	栗山 尚記	質問所要時間	30 分
質 問 事 項				質 問 要 旨	
2 医療環境について					
(1) かづの厚生病院小児科入院病床の受け入れ中止について				① 今定例会初日の市長の行政報告において、かづの厚生病院小児科入院病床の受け入れ中止という大変ショックな報告があった。6年前に出産受け入れが中止されて以来、急激に出生数が落ち込んでいる本市にとって、絶対に阻止しなくてはならない事態だと思う。そこで、現状の小児科入院病床の利用状況・入院受け入れ継続の条件・今後計画している要望活動や小児科医確保策について伺う。	
(2) 減少が続く歯科医院について				① 地域医療体制のぜい弱化が進む中、歯科医院の減少も続き、市民生活の利便性が低下し、さらには、学校や施設など多くの施設担当も兼務している歯科医の負担も急速に増え、悲痛の声が聞かれる。他の医療体制維持への支援と同様に、歯科医院への医師確保やスタッフの確保・新規開業などへの行政からの計画的な支援を急速に進める必要があると考える。これらについての現状や問題点・計画について伺う。	
3 企業支援について					
(1) 最低賃金引き上げへの対応について				① 秋田県の最低賃金が、10月1日より時間額951円に上がった。資材等の物価高騰の続く中、零細企業や農業の多い当市では、経営者側に多くの転換や努力が求められ、求人倍率にも影響が出てきている。政府は2020年代に最低賃金を1,500円に上げることを目標としている中、市に対しても、これまでの支援の内容や計画に対し、結果の出る変化が求められている。農商工問わずあらゆる業種に対し生産効率を上げ、雇用者がより高いサラリーが得られる支援プランを時代に合った形で計画実行する必要があると考えるが、これについて伺う。	